

再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
担当課長名：課長 中島 威夫

事業名 一般国道8号 <small>おやべ</small> 小矢部バイパス	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 北陸地方整備局								
起終点 自：富山県西砺波郡福岡町開ほつ 至：富山県小矢部市安楽寺		延長 8.5 km								
事業概要 一般国道8号は新潟市から京都市に至る延長約560kmの主要な幹線道路であるほか、富山県内においても主要都市及び拠点間を結ぶ重要な路線である。小矢部バイパスは、小矢部市街地を迂回し、能越自動車道福岡ICへのアクセス部を含む延長8.5kmの4車線（一部2車線）道路である。										
S49年度事業化 S51・63年度都市計画決定 S52年度用地着手 S53年度工事着手										
全体事業費： 約350億円 事業進捗率： 77% 供用済延長： 8.5 km										
計画交通量： 20,000台/日										
費用対効果分析結果	B/C： (事業全体) 1.6 (残事業) 3.1	総費用： (残事業)/(事業全体) 86/160億円 (事業費：54/128億円) (維持管理費：32/32億円)								
	総便益： (残事業)/(事業全体) 263/263億円 (走行時間短縮便益：251/251億円) (走行費用減少便益：6/6億円) (交通事故減少便益：6/6億円)	基準年： 平成15年								
事業の効果等 ・国土・地域ネットワークの構築（隣接した日常活動圏中心都市間を最短時間で連絡する路線を構成する） ・災害への備え（富山県地域防災計画に位置づけられた第1次緊急通行確保路線として防災機能も強化） 他5項目に該当										
関係する地方公共団体等の意見 一般国道8号は、地域交流の促進、交通混雑の緩和等に重要な役割を果たすことが期待されており、高岡市をはじめとする関係2市1町の首長で構成される一般国道8号整備促進期成同盟会より早期整備の要望（平成15年11月19日）を受けている。										
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 バイパスの全線暫定供用前後で交通量は1.2倍に増加しているなか、現道の交通量は2/3に減少している。										
事業の進捗状況、残事業の内容等 地元合意のもと用地買収を終了し、現在までに福岡ICアクセス部の2.0kmを完成2車線供用しており、残る6.5kmを暫定2車線供用している。										
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 事業地内（桜町遺跡）から縄文時代の生活様式を知る貴重な出土品が大量に発掘され現在、遺物整理・分析中であるが、交通状況を勘案しながら完成4車線化を目指す。										
施設の構造や工法の変更等 コンクリート構造物の大型化（長尺化）、用排水路のプレキャスト製品の積極的活用、再生材を利用した舗装・路盤工の活用等によるコスト縮減を図っている。										
対応方針 事業継続										
対応方針決定の理由 以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。										
事業概要図										
<table border="1" style="float: left; margin-right: 10px;"> <tr><th>凡</th><th>例</th></tr> <tr><td>■</td><td>供用中</td></tr> <tr><td>▨</td><td>再評価箇所</td></tr> <tr><td>▩</td><td>うち供用中</td></tr> </table>			凡	例	■	供用中	▨	再評価箇所	▩	うち供用中
凡	例									
■	供用中									
▨	再評価箇所									
▩	うち供用中									

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。事業全体の費用便益は、既供用区間を除く区間を対象とした費用便益分析を行っている。